

## 児童生徒の図画工作・美術への興味・関心・意欲を高める手立てを探る

—図画工作と美術の作品の相互鑑賞を通して—

糸満市立兼城中学校教諭 島 筒 格

### I テーマ設定の理由

#### 1 学習指導要領から

中学校学習指導要領解説「美術編」の第1節 教科の目標では「教科の目標は、小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や表現及び鑑賞の基礎的な能力などを基に、中学校美術科に関する資質や能力の向上と、それらを通じた人間形成の一層の深化を図ることをねらいとし」と記載されている。「図画工作」(以降、図工)での学習経験を踏まえた指導に関する記述は以降 10ヶ所ある。また小学校学習指導要領解説「図画工作編」の第1節 教科の目標では、「この目標は、児童の発達特性なども考慮して、……学年の目標及び内容とともに、年間の指導計画や具体的な指導を考える際のよりどころとなる。」と記載されており、発達段階を踏まえた指導に関する記述は 21ヶ所に及ぶ。このことから両指導要領解説は児童生徒の発達段階とこれまで学んできたことや経験を踏まえ、中学校「美術」までの連続的で発展的な指導の必要性を示していると考ええる。

#### 2 これまでの実践課題

「先生、その画材小学校で使ったことない」「小学校の担任の先生からは、こう描きなさいって言われたよ」「僕はどうせ絵を描くの下手だから」「美術になったら、難しくなった」等々、私のこれまでの授業、特に1年生の1学期によく聞かれた言葉である。「美術」という授業にギャップを感じている生徒がいるのは明らかである。これまでの実践を振り返ると、生徒が小学生の時に「図工」でどのようなことを学んできたのか把握し、それを踏まえた題材の設定や指導計画を行ってきたと言いはし難い。指導要領「図画工作」及び教科書に目を通してはいるが、両教科は裁量の部分が大きく、これだけでは見えない、わからないことが多い。例えば「図工」小学1、2年生A表現の造形遊びでは「ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。」となっており、人工の材料は何を使う、色は何色まで使えるようになる等の具体的な記述はない。目の前にいる生徒が小学校で「どんな題材を、具体的にどのような材料や用具を使って、技術的な指導を受けたのか」十分把握できないまま授業を行っている現状がある。

#### 3 児童生徒の発達段階から

東山 明(1999年)は、その著書において、子どもの絵の発達段階を図1の様を示している。東山によると小学校中学年から高学年を境に、児童は図式的な子どもらしい表現から抜け出し、写実的な、いわゆる大人らしい表現へ変わってくる。この頃から他者と自分との比較や技術的な欲求(上手になりたい、〇〇さんと比べてわたしは下手だ)が顕著に表れ、中学1、2年生頃まで続くことになる(表1)。子どもから大人へ、表現やもの見かたが変わっていく最中で、児童生徒は、小学校「図工」から中学校「美術」への切り替わりを経験することとなる。



図1 子どもの絵の発達段階

表1 子どもの絵の発達段階

段階	年齢	状態・特徴
なぐりがき期	1歳前後～3歳前後	なぐりがき，ぬたくり，線遊びの時期
象徴期	2歳前後～4歳前後	形が現れ，象徴的に描く
図式的な表現	幼稚園～小学校低学年	画面に空間秩序ができ，絵記号を組み合わせて描く
写実の黎明期	小学校中～高学年	写実的表現が芽生えてくる。客観性が出てくる。
写実期	小学校高学年～中学1年頃	写実的，客観的表現が定着する。
完成期	中学2，3年～高校生	自己の内面化が進み芸術やファッションに興味を持つ

#### 4 本研究において

そこで本研究において，同じ校区の小学校，中学校同士でも取り組める「図工」と「美術」の小中連携の方法を探り，実践することで，児童生徒の「図画工作」と「美術」に関する興味・関心・意欲をより高めていけると考える。

## II 研究仮説と検証方法

### 1 研究仮説

小学校「図画工作」と中学校「美術」が連携して，作品の鑑賞を行うことで，作品を通して，児童生徒，教員ともに情報の共有が図れ，より興味・関心・意欲を持って図画工作と美術に取り組めるのではないかと考える。

### 2 検証方法

#### (1) 児童生徒や小中学校教員への意識調査等アンケートで実態の把握を行った

調査内容：中学校1年生への「図工・美術に関する意識調査」  
 調査方法：アンケート  
 調査時期：平成24年10月  
 調査対象：島尻地区・那覇地区中学校1年生(479名)

調査内容：教員への「図工と美術の小中連携に関する意識調査」  
 調査方法：アンケート  
 調査時期：平成24年10月～11月  
 調査対象：島尻地区・那覇地区の小学校及び中学校美術科教員(小学校教員102名・美術科教員33名)

#### (2) 県内外の「図工」と「美術」の小中連携や一貫教育校の事例を調査した

調査内容：小中一貫教育校の取り組み調査①  
 調査方法：研究発表会への参加(授業観察，研究協議会への参加，資料収集，教員へのインタビュー)  
 調査時期：平成24年11月3日  
 調査対象：大阪教育大学附属平野幼・小・中・高校

調査内容：小中一貫教育校の取り組み調査②  
 調査方法：授業観察(小学校5年生)，教員へのインタビュー  
 調査時期：平成24年11月8日  
 調査対象：名護市立緑風学園(小・中一貫校)

調査内容：小中一貫教育校の取り組み調査③  
 調査方法：研究発表会への参加(授業観察，研究協議会への参加，資料収集，教員へのインタビュー)  
 調査時期：平成24年11月16日，17日  
 調査対象：広島大学附属三原幼・小・中学校園

**(3) 「図工」の授業観察および実際に授業を行って、授業内容や児童の活動の理解に努めた**

調査内容：小学校図工の授業について、体験を通して知る

調査方法：小学校図工(木版画)の授業にティームティーチングで参加する。

授業後の感想の分析，アンケートの実施，教員へのインタビュー

調査時期：平成 24 年 11 月 22 日，29 日，12 月 6 日，13 日，20 日(計 5 回 10 時間)

調査対象：うるま市立具志川小学校 4 年 2 組

**(4) 検証授業**

①中学校 1 年生 H25 年 1 月 23 日	検証の場面	検証の観点	検証の方法
②小学校 6 年生 H25 年 2 月 5 日	展開	(1) 校種間を超えた作品を生徒は興味・関心を持って鑑賞することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・授業の事前・事後アンケート比較・分析</li> <li>・授業の感想の内容</li> </ul>
③小学校 4 年生 H25 年 2 月 7 日	作品鑑賞 相互交流	(2) 作品の鑑賞を通して，生徒はより図工・美術への意欲をより高めることができたか。	
前後の調査	事前調査：検証授業前	事後調査：検証授業後	

**Ⅲ 研究内容**

**1 「図工」と「美術」に関する実態の把握**

**(1) 中学校 1 年生のアンケート調査から**

中学校 1 年生に行った「図工・美術に関する意識調査」(検証計画(1))で，図工を「好きでなくなった」「あまり好きでなくなった」と答えた生徒の理由と時期を図 2，表 2 に示した。図工に対して，小学校中学年，特に 4 年生を中心に苦手意識を持ち始めた生徒が多いことがわかる。「好きでなくなった理由」も

「①まわりに比べて，自分があまり上手くないと感じたから」「②先生の指示通りの描き方が，できなくなってきたから」「③頭で思い描いたとおりに，描けない(作れない)から」を大半の生徒が挙げており，写実的な表現が芽生えてくる，つまり対象物や自分を客観的に見る力がついてくる時期に苦手意識を持ったまま，より観察力や描写力，メタ認知力が求められる中学校「美術」を向え，それが関心や意欲の低下に繋がっていると推測できる。

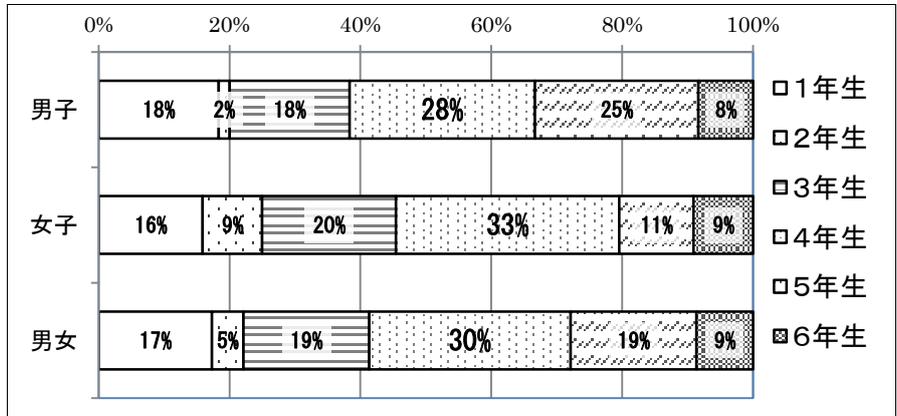


図 2 図工を好きでなくなってきたのは小学校何年生ぐらいのときから？

表 2 図工を好きでなくなってきた主な理由は何ですか？

項目	割合
① まわりに比べて，自分があまり上手くないと感じたから。	81%
② 先生の指示通りの描き方が，できなくなってきたから。	50%
③ 頭で思い描いたとおりに，描けない(作れない)から。	73%
④ 先生や友だちから，ほめて(認めて)もらえなくなってきたから。	6%
⑤ 絵の具など，使う道具が増えてきたから。	10%
⑥ 汚れることが気になりだした。	10%
⑦ アイデアをだすことが苦手だから。	46%
⑧ 集中して取り組むことが苦手だから。	18%

(2) 教員へのアンケート調査から

① 情報は共有されているか

中学校美術科教員を対象に行った「図工・美術の小中連携に関する意識調査アンケート」(検証計画(2))で「小学校図画工作科の学習指導要領を読まれたことはありますか?」との問いに「学習指導要領」では45%が、「学習指導要領解説」においては21%が読んだことがあると答えている。また中学校「美術」にはなく、小学校「図工」の特徴の1つである「造形遊び」に関して「どのような授業か、わかる」と答えた美術科教員は61%、実際に「授業を見たことがある」と答えたのは42%であった(図3)。一般的に高い値とは言えないが、校種が違うにも関わらず、半数近くの美術科教員が指導要録に目を通し、「造形遊び」の授業を見ていることになる。次に小学校側に目を移し、校内で図工に関する情報の共有がどの程度行われているかを調べた。「同学年、他の学級担任と図工に関してどの様に連携しているか」

との問いに、「新しい題材に入る前に、ねらいや必要な用具、材料、使う資料等の確認を行っている」が70%、「見本や用具、板書用の資料等を共用し合ったり、授業を行って気付いた点など伝え合っている」が61%と綿密に情報の共有を図っていることがわかる。一方「前年度の担任と図工について、どの程度引き継ぎを行えていますか?」との問いには、70%が「図工に関する引き継ぎを行えなかった」と答えている(図4)。1人で全ての教科を受け持つ小学校教員が、1つの教科の引き継ぎに十分な時間をかけられない現状が見えてくる。

② 連携の必要性を感じているか

「小学校図工と中学校美術の連携(授業に限定せず)は必要だと感じますか?」の問いを小学校教員、中学校美術科教員に行った結果が図5である。アンケートの質問に出ていたから答えたであろうことを考慮しても、小学校教員、中学校美術科教員の大半が連携の必要性を感じていることがわかる。では連携の必要性をなぜ感じるのか、その主な理由を表3に、必要性を感じない、あるいは連携が難しいと考える主な理由を表4に示す。

連携の必要性を感じる理由か

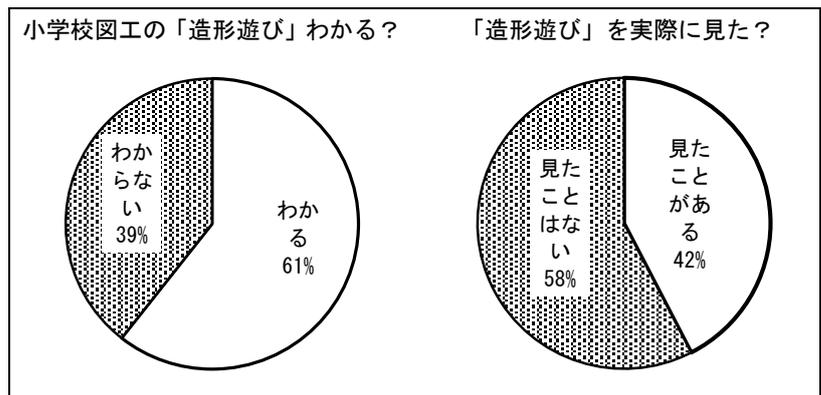


図3 中学校美術科教員へのアンケート

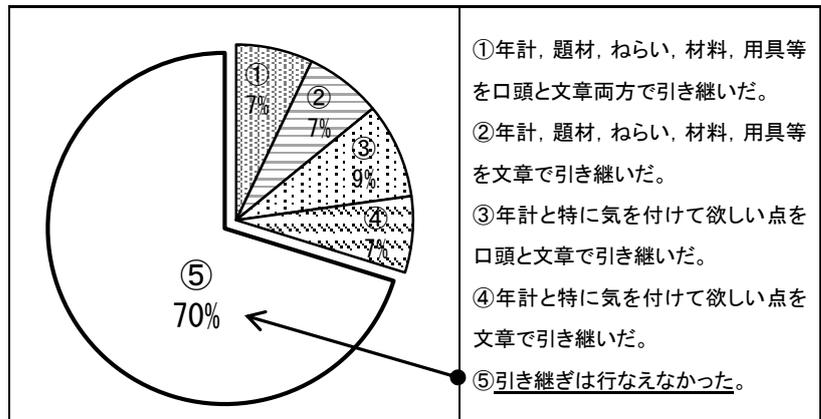


図4 図工 学年間の引き継ぎ状況(小学校教員 57名)

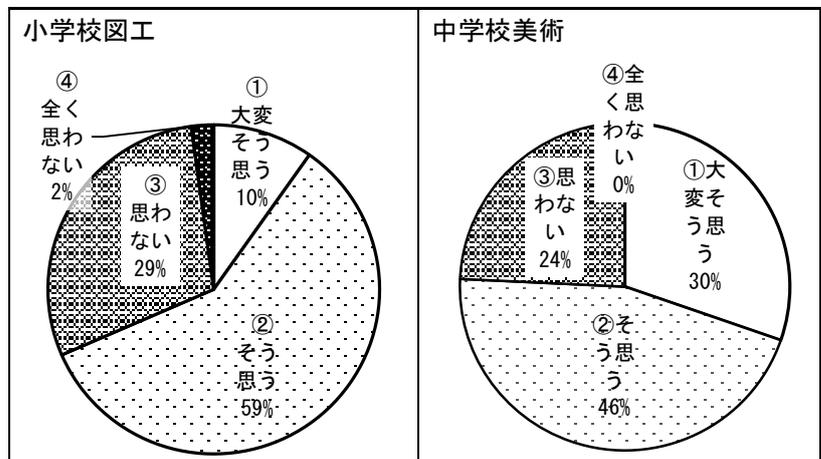


図5 図工と中学校美術の連携は必要だと感じますか?

らは、互いの教科について知ること、技能等の向上や一貫性を持ったカリキュラムの作成に繋がり、児童生徒の活動がより意欲的なるのではと考えていることが分かる。

連携の必要性を感じない、あるいは難しいと感じる理由からは、互いの教科について知らないが故に連携について関心が湧かなかつたり、時間等の都合で連携を図る余裕がないと考えていることがわかる。

表3 連携の必要性を感じる主な理由

小学校図工	中学校美術
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の早いうちから良い作品に出合わせたい。</li> <li>・小学生が中学校の授業を見ると「中学校ではこんな技法を学んだ、すごいな」と思って、活動も意欲的になるのではないかと思います。</li> <li>・小学校でしっかり技法などを教えておくと、中学校でも活かそうだから。</li> <li>・中学校で、どんな指導がなされているのか知ること、図工の指導に工夫ができると思う。</li> <li>・用具の使い方や技術等の段階的な指導法を知ることができる。</li> <li>・中学校の美術が、小学校の図工でどんな力をつけて欲しいかわからないので。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校に上がってきた生徒が、これまでにどんな指導を受けてきたかを知ること、美術の授業に関連付けて活かせる考える。</li> <li>・専門の先生がいない中で、指導にとっても困っているという声をよく聴く。中一の技能、知識の差をとっても感じるため。</li> <li>・小学校から中学校に上がったときのギャップがないようにしたいため。</li> <li>・小学校から連続して題材配列の関連性を考慮できる。</li> <li>・中学校教員はもっと小学校の先生方の積み重ねを知った方がよい。専門外の先生が児童に段階的に力を付けている状況を理解すれば関わり方も見えてくる。</li> </ul>

表4 連携の必要性を感じない、あるいは難しいと感じる主な理由

小学校図工	中学校美術
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む内容が、小学校と中学校ではだいぶ違いそうなので効果は薄いのではと思う。</li> <li>・小学校の場合ほとんどの教科を担当でおこなっているため難しいと思う。</li> <li>・図工は児童が楽しく工夫していれば、それでOKという考えで授業しています。</li> <li>・考えたことがない</li> <li>・時間がない。</li> <li>・余裕がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な実技と発想力を高める自由な造形遊びを小学校でしっかり行ってもらいたい。そうすれば連携を図らなくてもよい。</li> <li>・小学校の先生は美術の専門でないので厳しいと思う。</li> <li>・美術と図工は別物と思う。</li> </ul>

## 2 図工と美術の作品の相互鑑賞を通しての連携

### (1) 連携・一貫校での実践調査

小中一貫校や連携校では、小学校と中学校が同じ敷地や校舎内に設置されてあったり、連携を図る為の組織作りや人員の配置など様々な配慮が施されている。その利点を生かし、例えば「小学生と中学生の異学年交流授業」や「小学校教員と中学校教員のチームティーチング」等の効果的な取り組みが行われている。しかし、これ等の実践は、連携を前提に教科のカリキュラム、年間行事、時間割、時程が調整されているからこそ行っている側面がある。

### (2) 日常的に行われている「図工」と「美術」の連携

小中一貫教育を継続的に行っている『大阪教育大学附属平野幼・小・中・高校』（以降、平野校）と『広島大学附属三原幼・小・中学校園』（以降、三原学園）では小学生と中学生の異学年交流授業やチームティーチングなどの活動も行われているが、表5の取り組みが日常的に行われていた。

表5 平野校，三原学園で，日常的に行われている「図工」と「美術」の連携

① 図工科と美術科の教科会を定期的(学期に1, 2回)に持ち，互いの授業内容の確認や，系統性のあるカリキュラムの編成について話し合う。
② 授業風景や児童生徒の作品を写真撮影し，図工・美術科共有のフォルダに保存。互いの活動状況を画像データで確認し合っている。
③ 図工室や美術教室前，あるいは校内の展示スペースに小学生と中学生の作品を展示し，小学生，中学生共に互いの作品を鑑賞できる環境を作っている。

小学校と中学校が別組織の場合に①を行うことは難しいが，②の作品の画像データの交換や③の小学生，中学生が互いの作品を鑑賞することは，工夫をすれば可能と考えた。

(3) 小学生，中学生が双方の作品鑑賞を通して，興味・関心・意欲を高める

そこで，児童生徒の直接の活動状況から効果を見取っていける「小学生が中学生」の「中学生が小学生」の作品を鑑賞する授業を行うこととした。

## IV 授業実践

### 1 授業実践1回目 (平成25年1月23日実施)

(1) 題材名 ー楽しく伝えるー「紙芝居で伝えよう！」(中学校1年生)

(2) 題材設定の理由

① 題材観

本題材は自分のための表現活動ではなく，他者(小学校低学年)のための表現活動となる。中学校1年生は大半の生徒が美術的な発達段階の「写実の黎明期」から「写実期」に入る頃で，他者の立場に立った客観的な表現や鑑賞ができるようになってくる。また思春期から自己肯定感が落ち込む時期でもある。そこで作品を小学校(生徒の卒業校)で読み聞かせの題材として活用して貰ったり，実際に児童に読み聞かせを行う。自分たちの作品が他者の役に立ち，認められる経験を通して自己肯定感が高まり，今後の美術への興味・関心・意欲の高まり繋がる则认为る。

② 生徒観(省略) ③ 指導観(省略)

(3) 題材の目標

相手(小学校低学年)の立場になって，伝えたい内容を視覚で効果的に伝える為には如何にしたらよいか考え，工夫しながら制作に取り組む。

(4) 授業計画 (全10時間5回)

次	時	学習活動	評価規準
第一次	1 (本時)	①小学生の作品を鑑賞し，作品を提供する相手を，感性豊かにイメージする。 ②紙芝居の読み聞かせを聞き，これからの制作活動の発想を広げる。	[関]小学生の作品に対し自分なりの感じ方ができる。 [鑑]絵に表した思いや伝えたいことを自分なりに感じ取って，伝え合う。
	2	・どの紙芝居にするか話し合い決定する。 ・誰がどの場面を担当するか，登場人物のデザインなどグループで話し合う。	[関]自分の視点や考えを持ち，また他者の意見を聞きながら紙芝居にする物語を決定することができる。
第二次	3 ↳ 9	・登場人物等のキャラクターデザインを行い，グループで共通理解する。 ・計画に従い，各自担当する場面の制作を行う。 ①下絵を描く ②彩色を行う	[関]グループで協力して制作を進めていける。 [発]表情や動き，人物の配置，前後の絵のつながりを意識しながら制作を進めていける。 [技]自分(たち)の表したい表現になるよう，適切な技法や画材選び，制作を工夫している。
三次	10	互いの作品(紙芝居)を鑑賞し，批評し合う。	[鑑]それぞれの作品のよさを味わったり，表現の多様性に気づくことができる。

課外	朝の読書活動を利用して、自分たちが作った紙芝居を使い、小学校で読み聞かせを行う。	[関]感情を込めて紙芝居を読み聞かせ、小学生に物語の良さを伝えようとしている。
----	--	---

(5) 本時の学習 (1/10)

① 本時のねらい

小学生の作品を、自分なりの見かた、感じ方で味わいながら、紙芝居の対象者(小学校1, 2年生)を情感豊かにイメージして、創作意欲を高めることができる。

② 本時の授業仮説

小学生の作品を鑑賞することで、生徒は紙芝居を贈る対象者を情感豊かにイメージすることができ、意欲を高めて制作活動に臨めるのではないか。

③ 展開

段階	学習活動	教師の指導支援・留意点	授業仮説の検証
導入	1 題材のねらいや学習内容を確認する。	・以前、小学生への読み聞かせを行った生徒の感想等紹介しながら、生徒の意欲を高める。	
展開	<p>2 小学生作品の鑑賞を行う。</p> <p>① 4年生の木版画の作品を使い、鑑賞する。</p> <p>② 小学生の作品を数点示しながら児童が「何をあらわそうとしたか」「どのような気持ちで作ったか」等を考えながら、自分なりの見かた、感じ方で味わっていく。</p> <p>3 物語の読み聞かせを行う。</p> <p>① 最初の場面の絵だけを見せ文章のみで行う。</p> <p>② 全ての場面の絵を見る。</p>	<p>2 ①児童の制作風景を語りながら、生徒に「木版画を初めて制作したとき」を思い出させていく。</p> <p>② 作品から感じられることを生徒に自由に語らせながら、小学低学年のイメージを喚起させていく。</p>	<p>検証①</p> <p>小学生の作品を生徒は興味を持って鑑賞することができていたか。 (観察, 発言, 学習記録)</p>
		<p>3 ①前文部分の絵を示し、タイトルと絵から、どんな場面か生徒に問いかけながらイメージを喚起する。</p> <p>②文章のみで自分がイメージしたものと、紙芝居の絵を比較しながら各場面を味わっていくよう促す。</p>	<p>小学生の作品を鑑賞することで、生徒は、紙芝居の対象者の具体的なイメージを高めることができていたか。 (観察, 発言, 学習記録)</p>
終末	4 学習記録を記入する。	4 小学生の作品を鑑賞したことで、対象者の具体的なイメージや制作に対する意欲が高まったかを書くよう促す。	



## 2 授業実践2回目（平成25年2月5日実施）

(1) 題材名 兼城中美術館 ―中学生の作品を見て、優しさメッセージを贈ろうー(小学校6年生)

### (2) 題材設定の理由

#### ① 題材観

本題材は、中学生作品の鑑賞を通して、そこに表されていることや作者の表現意図などを考え、自分なりに感じ取りっていく。その感じ取ったことを、作者に向けた「優しいメッセージ」として文章に表していく。そして中学校「美術」では、どの様なことを学ぶのか、何を大切にしているのか作品の鑑賞を通して感じ取り、中学校「美術」への興味・関心と意欲の高まりへと繋げていく。

#### ② 児童観(省略) ③ 指導観(省略)

### (3) 題材の目標

中学生の作品を、小学6年生が自分なりの見かた、感じ方で味わいながら、その思いを「優しいメッセージ」として文章で中学生に伝えていく。

### (4) 授業仮説

中学生の様々な美術作品を鑑賞することで、児童(6年生)は近い将来の自分たちに触れることができ、また作品それぞれのよさや美しさ、主題を感じ取る過程を通して、表現の多様性に気づき、美術や造形活動に対する興味・関心と意欲の高まりに繋がるのではないかと。

### (5) 評価規準

#### 【造形への関心・意欲・態度】

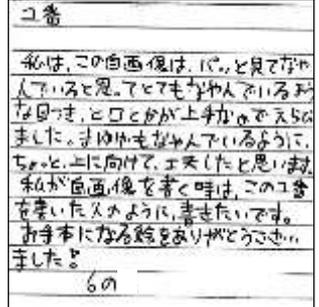
作品のよさや美しさ、作者の心情や表現の意図、工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。

#### 【鑑賞の能力】

自分なりの視点で、作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図、工夫などを味わい、また他者の感じ方も理解に努めながら、自分の思いや考えを伝えることができる。

### (6) 展開

段階	学習活動	教師の指導支援・留意点	授業仮説の検証
導入	1 題材のねらいや学習内容を確認する。	・ 中学生(先輩)が作った様々な作品を鑑賞すること、自分なりに作品の良さを感じ取り、メッセージカードを通してそれを伝えていくことを確認する。	
展開 1	2 美術作品の鑑賞を行う。 ①教師が示した作品について、その制作過程や生徒の工夫したところ等の話を聞く。 ②他の展示作品を自分なりの見かた、感じ方で鑑賞する。 「(先輩が) どの様な気持ちで作ったのかな」 「こんなところいいな」 「ここどうやって作ったの？」等	2 ①生徒の実際の制作風景を教師が語りながら、児童に「作品それぞれには作者の思いや工夫が詰まっている」ことを伝え、技術的な優位性だけに目を向けず、自分なりの視点で味わうように働きかけていく。  ②自由に作品を鑑賞させながら、	検証① 中学生の作品を児童は興味を持って鑑賞することができていたか。(観察, 発言, 感想用紙)  検証② メッセージカードを書くことを通して、児童は作品それぞれのよさを感じ取っていたか。(観察, メッセージカード)

<p>展開 2</p>	 <p>③お気に入りの作品数点を選びメッセージカードを書く。</p>  <p>3 作品鑑賞を通して感じ取ったことを発表し、伝え合っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から作品に関する質問などを受ける。</li> <li>・より深く作品を味わえるような問いかけをしていく。</li> </ul> <p>③「自分は、この作品のここ好きだよ、ここすごいと思うよ」等の作品の良さを自分の視点で見つけた優しいメッセージを書くよう伝えていく。</p> <p>3 作品に関する捉え方も人によって様々であり、自分なりの感じ方や表現が大切と同様に、他者の表現も認めていく大切さを共有していく。</p> 	<p>コ番</p>  <p>※1番は作品番号</p> <p>検証③ 発表を通して、主体的に鑑賞することや多様な感じ取り方があることに気付いていたか。(観察、発言、感想用紙)</p>
<p>終末</p>	<p>4 授業の感想を記入する。</p>	<p>4 作品を鑑賞しての感想と、今回の授業を通して、中学校の美術に関しての理解や興味が高まったかについて書かせる。</p>	

### 3 授業実践3回目 (平成25年2月7日実施)

(1) 題材名 兼城中美術館 -お気に入り作品を見つけて、メッセージを贈ろう- (小学校4年生)

#### (2) 題材設定の理由

##### ① 題材観

本題材は、中学生の作品の鑑賞を通して、作品のよさや面白さ、いろいろな表し方や材料による感じの違いを味わっていく。そして感じ取ったよさや面白さを、作者に向けた「メッセージカード」に表し伝えていく。その過程を通して中学校の美術を含めた、これからの造形活動への関心の高まりにと繋げてく。

##### ② 児童観(省略) ③ 指導観(省略)

#### (3) 題材の目標

中学生の作品を、自分なりの見かた、感じ方で味わいながら、よさや面白さ、いろいろな表し方や材料による感じの違いに気付く。

#### (4) 授業仮説

中学生の美術作品を鑑賞することで、児童は様々な表現方法、形、色、材料等に触れることができ、表現することのよさや面白さを感じ取り、今後の造形活動に対する興味・関心と意欲の高まりに繋がるのではないかと。

#### (5) 評価規準

##### 【造形への関心・意欲・態度】

様々な作品のよさや面白さ、いろいろな表し方や材料による感じの違いを主体的に楽しむ。

##### 【鑑賞の能力】

自分なりの視点で、作品の造形的なよさや面白さ、様々な表し方や材料による感じの違いなどを味わい、また友だちと感じたことを伝え合うことで、様々な感じ取り方があることに気付いていく。

(6) 展 開

段階	学習活動	教師の指導支援・留意点	授業仮説の検証
導入	1 題材のねらいや学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生(先輩)が作った様々な作品を鑑賞すること、自分なりに、また友だちと話し合ったりしながら作品の良さを感じ取り、メッセージカードを通してそれを伝えていくことを確認する。</li> </ul>	
展開 1	<p>2 美術作品の鑑賞を行う。</p> <p>① 教師が示した作品について、その制作過程や生徒の工夫したところ等について考える。</p> <p>②他の展示作品を鑑賞する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>自分のお気に入りの作品を見つけよう！</p> <p>「あっ、これ面白い」 「こんなところいいな」 「ここどうやって作ったんだらう」等を考えながら、自分なりの見かたや感じ方で味わう。</p> </div> 	<p>2 ① 対話型の鑑賞を行いながら児童が感じ取ったことを素直に語らせていく。</p> <p>自分なりの見かたや感じ方があること、同じ作品でもひとによって違う捉え方があることなどを確認していく。</p>  <p>②自由に作品を鑑賞させながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から作品に関する質問などを受ける。</li> <li>・より深く、あるいは視点を変えて、作品を味わえるような問いかけをしていく。</li> </ul> 	<p>検証① 中学生の作品を児童は興味を持って鑑賞することができていたか。 (観察, 発言, 感想用紙)</p> <p>検証② メッセージカードを書くことを通して、児童は作品それぞれのよさや面白さを感じ取っていたか。 (観察, メッセージカード)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>35番</p> <p>・本のつむがさかされていくのうらやまが すくなくあつた感じがしていいな ・今を語っている感じがしていいな いっしょに読んでみたいので「アイデア」が すごいと思うよ。 ・本はバランスよくつんでその上に本も読 みかたがかわっていたので「そのうらやま は、バランスがとれていていいな」 なと思いました ・いろいろな色があつてカラフルでし た。 ・本の裏の字が読めなくて、 おもしろいと思いました。</p> <p>4年 組</p> </div> <p>※35番は作品番号</p> <p>検証③ 発表を通して様々な見かたや感じ方を認め合えていたか。(観察, 発言, 感想用紙)</p> 
展開 2	<p>③自分のお気に入り作品を見つけ、その面白さやよさをメッセージカードに書いていく。</p> <p>3 自分のお気に入り作品とその面白さやよさを発表し、伝え合っていく。</p>	<p>③ 「この作品のここ面白いな、ここすごいと思うよ」等の作品の良さを自分の視点で見つけるよう伝えていく。</p> <p>3 お互いの感じ方や見かたを認め合えるよう促していく。</p>	
終末	4 授業の感想を記入する。	4 作品を鑑賞しての感想と、これから取り組んでみたい題材などについて書かせる。	

#### 4 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、児童生徒の感想やメッセージカードの内容を基に考察する。

##### (1) 検証授業 1 回目から

表 6 は、生徒が書いた「授業の感想」の主な記述内容を分類したものである(1人で複数記述有り)。小学校低学年の作品に対して「面白い」「いきいきしている」「上手、色々な工夫をしている」等、肯定的に捉えた内容が多く見られた(図 6)。また「小学生らしい(表現)」や「なつかしい」などから、小学生当時の自分と作品を重ね合せていたり

こともわかる(図 7)。このことから小学生の作品を鑑賞することで、紙芝居を贈る対象者をイメージし、創作意欲を高めることに繋がっていくと推測できる。一方で図 8 の様に、作品から

児童をイメージできない生徒や、未記入・未提出の生徒も約 1 割いた。

##### (2) 検証授業 2 回目, 3 回目から

表 7, 8 は、それぞれ小学校 4 年生と 6 年生が検証授業後に書いた「授業の感想」の主な記述内容を分類したものである(1人で複数記述有り)。ほとんどの児童の感想に肯定的な言葉が書かれていた。4 年生, 6 年生共に多かった言葉は「自分もやってみたい, こんな作品を作ってみたい」(図 9)で、中学生の様々な作品を鑑賞することで、内発的に造形活への意欲が高まっていることが読み取れる。「色々な表現やアイデアがある」「人によって表し方が違う」等、個性の受容や表現の多様性を感じ取れている言葉も多く見られた(図 10)。また、図工への苦手意識の軽減に繋がったのではと考えられる感想を書いた児童も 4 年生で 3 名, 6 年生で 5 名いた(図 11)。一方で「中学生みたいに上手にできるか」と不安の言葉を書いている児童もい

表 6 中学校 1 年生「授業の感想」の主な内容(30 名中)

	ことば	人数
①	面白い	4 名
②	いきいき, 気持ちが伝わる	5 名
③	上手, 色々工夫されていた	12 名
④	小学生らしい, 独特な表現	10 名
⑤	なつかしい, こんな絵を描いていたんだな	4 名
⑥	何を描いているのかわからなかった	1 名
⑦	未記入・未提出	2 名

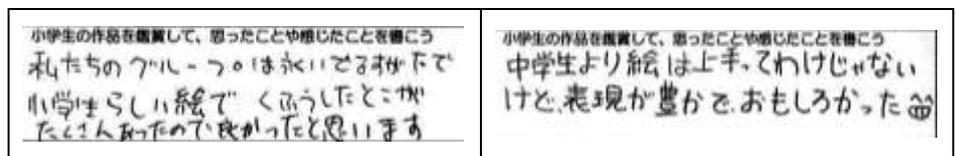


図 6

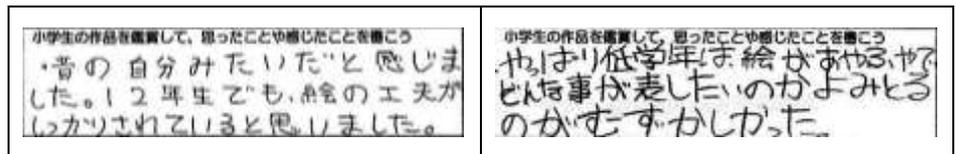


図 7

図 8

表 7 小学校 4 年生「授業の感想」の主な内容(35 名中)

	ことば	人数
①	面白かった	4 名
②	色々な表現やアイデアがある	13 名
③	上手にできている	15 名
④	美術についてわかった, 不安が減った	3 名
⑤	自分もやってみたい	15 名
⑥	もっと見たい, もう少し詳しく知りたい	2 名
⑦	上手にできるかな(不安)	1 名

表 8 小学校 6 年生「授業の感想」の主な内容(35 名中)

	ことば	人数
①	面白かった	10 名
②	色々な表現やアイデアがある	7 名
③	人によって表し方が違う	9 名
④	美術についてわかった, 不安が減った	5 名
⑤	参考になった	12 名
⑥	自分もやってみたい	13 名
⑦	上手にできるかな(不安)	5 名
⑧	実力の差がある	1 名



## V 研究の結果と考察

本研究の考察は、検証授業の実施前と実施後に行った兼城小学校4年生と6年生(以降、4年生と6年生)へのアンケート及び検証授業の観察を行った教員へのアンケート結果から行う。

### 1 小学生のアンケート結果から

#### (1) 「美術」の教科について、わかりますか？

中学校「美術」の教科についてわかるかとの問いに、4年生と6年生ともに3分の2の児童がわからないと答えていた(図15)。「わかる」「少しわかる」と答えた児童14名(4年生7名、6年生7名)の理由の内訳は表9の通りである。大半の児童が親や兄姉などから聞いており、家族から情報が得られない児童は「美術」の教科について殆どわからない状況であった。授業の実施後は6年生の1名を除き「わかるようになった」と答えている。この結果から中学生の作品を鑑賞することは、児童の「美術」の教科への理解を高めることに有効だと言える。

表9 中学校「美術」をわかる理由

理由	人数
兄姉から聞いたから	9
親から聞いた	2
中学生の従妹から聞いた	1
中学生の友だちから聞いた	1
バスケットで中学校に行ったときに見た	1

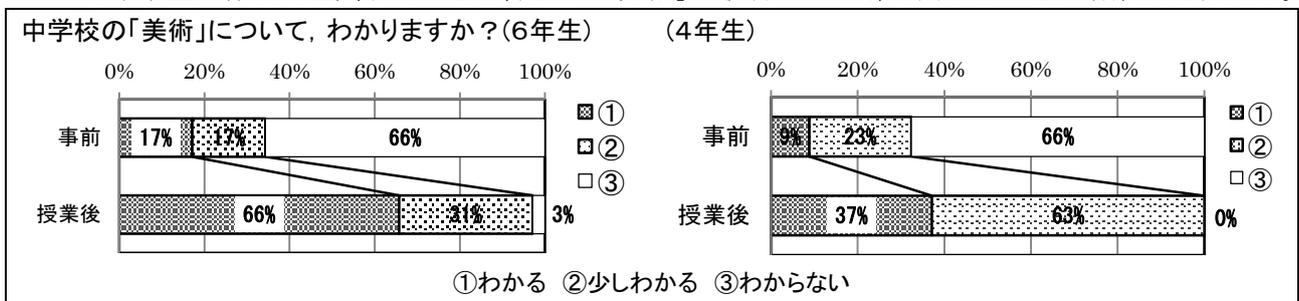


図15

#### (2) 「美術」の授業は楽しみですか？不安ですか？

「美術」の授業について「楽しみか？不安か？」との問いに、6年生の事前調査では約3割の児童が不安だと答えていた。これが検証授業の実施後は4年生、6年生ともに97%の児童が楽しみと答えており(図16)、中学生の作品を鑑賞することは、「美術」の授業への不安の解消と意欲の向上に有効だと言える。(4年生は授業後の調査のみ行った)

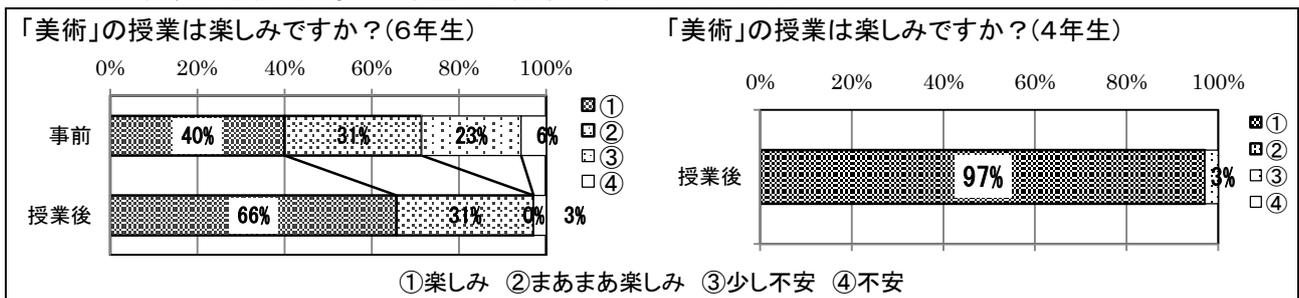


図16

### 2 教員へのアンケート結果から

兼城小学校で行った2回目、3回目の検証授業の観察を行った教員(5名)を対象にアンケートを行った。「これまでに、中学校美術の授業をご覧になったことはありますか？」との問いに1名が「ある」と答え、4名が「ない」と答えた。

「中学生の作品鑑賞は児童の図工や美術への興味・関心や意欲の向上につながったと思いますか？」との問いには、5名全員が「向上につながった」と答えている。その理由として「図工が苦手だという子から“こんなものができるんだ”“どんな風に作ったんだ？”“つくってみたい”という声があった」「異年齢の作品は見る機会が少ない」「自分たちもアニメ動画を作りたいという声が多

かった」等が挙がっており(図 17)、中学生の作品に触れることで児童の興味・関心や意欲が高まっていたことを実感できているようだ。

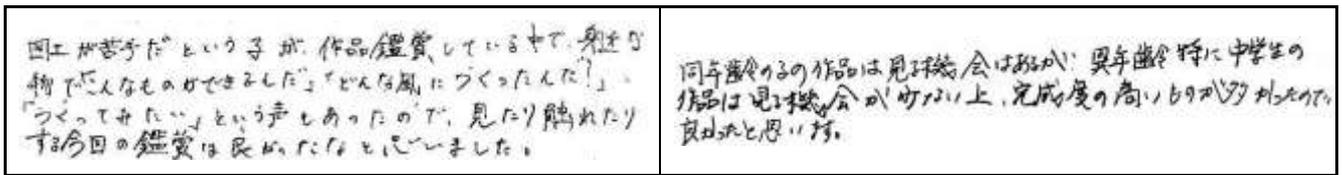


図 17

以上、考察 1, 2 より、校種間を超えて作品鑑賞を行うことは、児童生徒の「図工」「美術」への興味・関心・意欲を高める手立てとして有効である。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

小学校「図工」と中学校「美術」が連携して作品の鑑賞を行うことで、以下の 2 点を確認できた。

- (1) 児童生徒、教員ともに「図工」と「美術」に関する情報の共有を図ることができる。
- (2) 児童生徒の「図工」と「美術」への興味・関心・意欲を高める手立てとして有効である。

### 2 今後の課題

今後も継続的に校種間を超えた作品鑑賞を行っていくためには、今検証の様に中学校美術科教員が小学校で図工の授業を行う形は、小学校と中学校間でカリキュラム、時間割、時程等の様々な調整が必要となる為に難しい。

### 3 研究成果の今後の活用

今後も更に「図工」と「美術」の小中連携を図っていく為に、研究の過程で得られた各種調査のデータや小中一貫・連携校の実践事例、小学校「図工」での授業体験等を基に、次の 3 つの方法を考えた。今後はこれ等を実施し、効果の確認を行えるよう取り組んでいきたい。

(1) 小中合同の作品展示会を行う

(2) 「図工」と「美術」の合同教科研修会を持つ

(3) 題材カードを作成しポートフォリオする

#### (1) 小中合同の作品展示会を行う

表 5③の「校内に図工と美術両方の作品を展示し、児童生徒が両方の作品を目にすることができる」状況作りを参考に『小中合同の作品展示会』を考えた(図 18)。補足資料として 2 回目、3 回目の検証授業を観察した教員に「一定期間作品の展示を行うだけでも、児童の意欲や興味・関心の向上につながると思うか」と質問したところ、5 名全員が「作品を鑑賞するだけでも効果を得られる」と答えた。その理由として記されていた内容を表 10 に示す。

表 10 作品の展示だけでも効果はありそうか？

- ・「作品を作る際に、あの時にあんなもの見たから取り入れてみよう、図工が苦手な子でもイメージがふくらむのではないかと思います。」
- ・「実際に見たりふれたりすることで刺激を受けていた。子どもたちの感性は素晴らしいので。」
- ・「部活での先輩や、自分の兄弟、友だちの兄弟と知り合いも多い様で、とても興味深く作品を見ていたため。」
- ・「中学生の作品がバラエティーに富んでいたため、絵画なら絵画、造形なら造形と整理して見せれば、工夫点など分かりやすいのではないかと思います。」

《小中合同作品展(案)》

- ① 校区内の小学校「図工」と中学校「美術」で、児童生徒が制作した作品(9学年分)を集め展示会を行う。その時、児童生徒が自分のお気に入り作品を1人1品展示することが望ましいが、展示スペースの関係等を考えて適宜調整する。
- ② 展示は、ピロティ等々の全学年児童(生徒)や職員の目にふれる場所が望ましい。
- ③ 校区内の小学校と中学校で一定期間(1週間程度)持ち回り展示を行う。
- ④ 展示会は年に1, 2回行う。時期は、準備の時間を確保しやすい夏休み明け、学芸会等文化的行事の催される期間、三者面談が行われる期間等が考えられる。

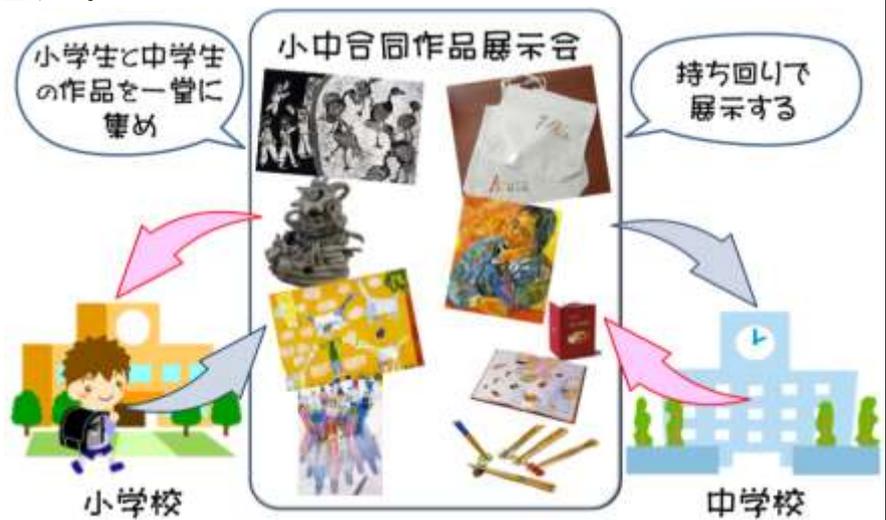


図 18

(2) 「図工」と「美術」の合同教科研修会を持つ

「図工・美術の連携に関するアンケート」(研修計画(1))で行った「図工と美術の連携を行うとき、具体的な活動として、どのような取り組みが考えられますか?」との問いに、小学校教員から表 12、中学校美術科教員からは表 13 の意見が寄せられた。また私はここ数年、夏休みに島尻地区

で行われている小学校教員への「読書感想画の指導講習会」に講師として参加しているが、講習会で小学校教員は非常に熱心に取り組み、また多くの質問を寄せてきて、図工の指導力向上を望んでいることが伝わってくる。以上の事から、長期休業期間等を利用し、小学校教員と中学校美術科教員で研修会を持てば、双方のカリキュラムの共通理解、技能や指導方法の向上に役立つと考える。研修会の内容として、県内の小学校「図工」で、ほぼ全校で取り組まれている「読書感想画」「版画」そして「鑑賞の授業」等が考える。



表 12 小学校教員の主な意見

<p>「工作については(中略)、図画については、こういった指導法があるのか知りたい」</p> <p>「(美術の教員から)絵の描き方、技法を習う」</p> <p>「高学年での風景画の描き方を知りたい」</p> <p>「子どもの自由な発想を、どの様に評価するのか知りたい」</p>
--

表 13 中学校美術科教員の主な意見

<p>「教科書で抑えるべきところを共通理解していく」</p> <p>「水彩用具、パレットや筆の基本的な使い方を確認したい」</p> <p>「技術的、技能的指導は児童に需要があると思う」</p> <p>「小学校の先生方も授業内容や評価に悩み、自信を持って指導している方が少ないと感じた」</p>
--

### (3) 題材カードを作成しポートフォリオする

表5②の画像データ共有は小学校「図工」と中学校「美術」間で情報を共有する効果的な取り組みであるが、小中両校で共通に使えるネットワークやデータフォルダが必要になる。その環境が整っていない学校間で同様の連携を図ることは難しいが、作品の画像(写真)と共に題材のねらいや使用した画材、用具等の要点を記した「題材カード」を作成することは可能と考える(図17)。これを題材毎に作成し、ポートフォリオしていく。そして新学期に題材カードを新しい担任に渡す。最終的に中学校美術科教諭に6年間のポートフォリオを引き継ぐ。この形ならば、小学校と中学校間の情報の共有のみならず、小学校の学年間での「図工」の継続した情報の共有にも活用できると考える。

- 児童(生徒)作品の画像を1枚挿入する。
- 図工指導要領で示されている主な材料や用具  
□にチェックを入れる。→☑  
リスト以外の材料は用具は、直接記述する。
- 担任として配慮、工夫した点や児童の様子等を  
簡潔に記入。

図17 題材カード(案)

### <主な参考文献>

東山明・東山直美 著	『子どもの絵は何を語るか』	NHK 出版社	1999年
東山明編著・今井真理 著	『絵の指導がうまくいくヒント&アドバイス』	ひかりのくに	2008年
天笠茂監修	『公立小中で創る一貫教育』	ぎょうせい	2005年
図画工作科・美術科の学力保障カリキュラム開発研究部編	『所沢市における図画工作科・美術科の学力保障カリキュラム開発について』	所沢市教育委員会	2007年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説 図画工作編』	日本文教出版	2008年
文部科学省	『中学校学習指導要領解説 美術編』	日本文教出版	2008年
広島大学附属三原学校園編著	『幼小中一貫で育つ子どもたち』	溪水社	2008年
野切卓著	『図画工作科 授業の基礎基本』	小学館	2010年
奥村高明著	『子どもの絵の見方』	東洋館出版社	2010年
呉市教育委員会編	『呉市の小中一貫教育』	呉市教育委員会	2011年
図工美術 OKAYAMA	<a href="http://okachubi.exblog.jp/">http://okachubi.exblog.jp/</a>		2013年
伊達市立保原小学校 HP	<a href="http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0710099">http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0710099</a>		2013年